

## 「ザ・クインテッセンス」2018年12月号のお詫びと訂正

「ザ・クインテッセンス」2018年12月号の特集1『歯周組織再生剤「リグロス」の臨床像』において、46ページ本文中の右段、上から8～19行目の「KitamuraらのrhFGF-2群とフラップ手術群、EMD群との効果の比較」および同20～31行目「CochranらのrhFGF-2をβ-TCPと併用した際の効果」に対する考察の内容に誤りがありました。以下に正しい内容を記載して訂正し、お詫びいたします。（編集部）

### 【誤】

さらにKitamuraらは、2016年の報告<sup>8</sup>でフラップ手術、EMDと効果の比較をしている。15施設によるRCTを行い、36週間観察をした。研究を完遂した263名の被験者についてのクリニカルアタッチメントゲインの比較では、フラップ手術群が1.7(1.39)mm、EMD群が2.3(1.51)mm、rhFGF-2群が2.7(1.29)mmであり、3群間で統計学的に有意な差を認めなかったとしている。エックス線写真上で認められる歯槽骨の高さの比較では、フラップ手術群で13.3(20.6)％、EMD群が23.3(25.1)％、rhFGF-2群が34.4(24.4)％の改善を認めたが、こちらも統計学的な有意差は認めなかったと報告している。

Cochranらの報告<sup>9</sup>では、rhFGF-2をβ-TCPと併用した際の効果についてRCTで検討している。β-TCPと担体、β-TCPと0.1％、0.3％、0.4％のrhFGF-2を併用した群の4群に分けて6か月間観察した。研究を完遂した85名に対して分析を行ったところ、クリニカルアタッチメントゲインは、β-TCPと担体では5.5(1.9)mm、β-TCPと0.3％のrhFGF-2を併用した群では5.3(1.5)mmで有意差を認めなかった。エックス線写真上での骨欠損に関しては、β-TCPと担体では62.5(26.4)％、β-TCPと0.3％のrhFGF-2を併用した群では74.6(20.0)％で、こちらも統計学的な有意差を認めなかったとしている。

### 【正】

さらにKitamuraらは、2016年の報告<sup>8</sup>でrhFGF-2のEMDを比較対照とした非劣性試験を行い報告している。15施設によるRCTを行い、36週間観察をした。研究を完遂した263名の被験者についてのクリニカルアタッチメントゲインの比較では、参考としたフラップ手術群が1.7(1.39)mmであったのに対し、EMD群が2.3(1.51)mm、rhFGF-2群が2.7(1.29)mmであったとしている。エックス線写真上で認められる歯槽骨高さの増加率の比較では、フラップ手術群で13.3(20.6)％、EMD群が23.3(25.1)％、rhFGF-2群が34.4(24.4)％の改善を認めた。結果として、クリニカルアタッチメントゲインおよび歯槽骨高さについてEMDに対するrhFGF-2の優越性が示されたと報告している。

Cochranらの報告<sup>9</sup>では、rhFGF-2をβ-TCPと併用した際の効果についてRCTで検討している。β-TCPと担体、β-TCPと0.1％、0.3％、0.4％のrhFGF-2を併用した群の4群に分けて6か月間観察した。研究を完遂した85名に対して分析を行ったところ、クリニカルアタッチメントゲインは、β-TCPと担体では2.9(2.1)mm、β-TCPと0.3％のrhFGF-2を併用した群では3.0(1.4)mmで有意差を認めなかった。エックス線写真上での骨充填率(% Bone fill)に関しては、β-TCPと担体では62.5(26.4)％、β-TCPと0.3％のrhFGF-2を併用した群では74.6(20.0)％で、こちらは統計学的な有意差を認めなかったが、サブグループ解析により、1壁性および2壁性の骨欠損形態においては、rhFGF-2を併用した群では、有意に高い骨充填率が認められたと報告している。